

けんぽんぼくしょかいたくはんがんまつもとじゅうろうあてりょうがいかんしぶんへんがく  
「絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額」について

The poem from RYOGAI to MATSUMOTO Juro, framed writing on silk

荒山 千恵\*

Chie ARAYAMA\*

キーワード：扁額，浜益，荘内藩，菱崖，松本十郎

### 1. はじめに

本稿は、はまます郷土資料館の展示資料の一つ「絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額」(写真1)について、概要調査の内容をまとめたものである<sup>(注1)</sup>。

### 2. 当該資料の来歴

「浜益村郷土資料館収蔵物件記録カード」によると、当該資料は大正末年(1926年頃)に旧浜

益村住民が小樽の骨董商より買い求めたものである。1971(昭和46)年に旧浜益村の開村百年記念事業の一環により浜益村郷土資料館(現・はまます郷土資料館/石狩市)が開館した年に借用され、1984(昭和59)年に正式に寄贈された。

### 3. 当該資料の内容

#### 3-1 漢詩文の作者と贈呈された人物

当該資料の漢詩文は菱崖が松本十郎宛に贈呈したものである。松本十郎(旧名 戸田惣十郎・

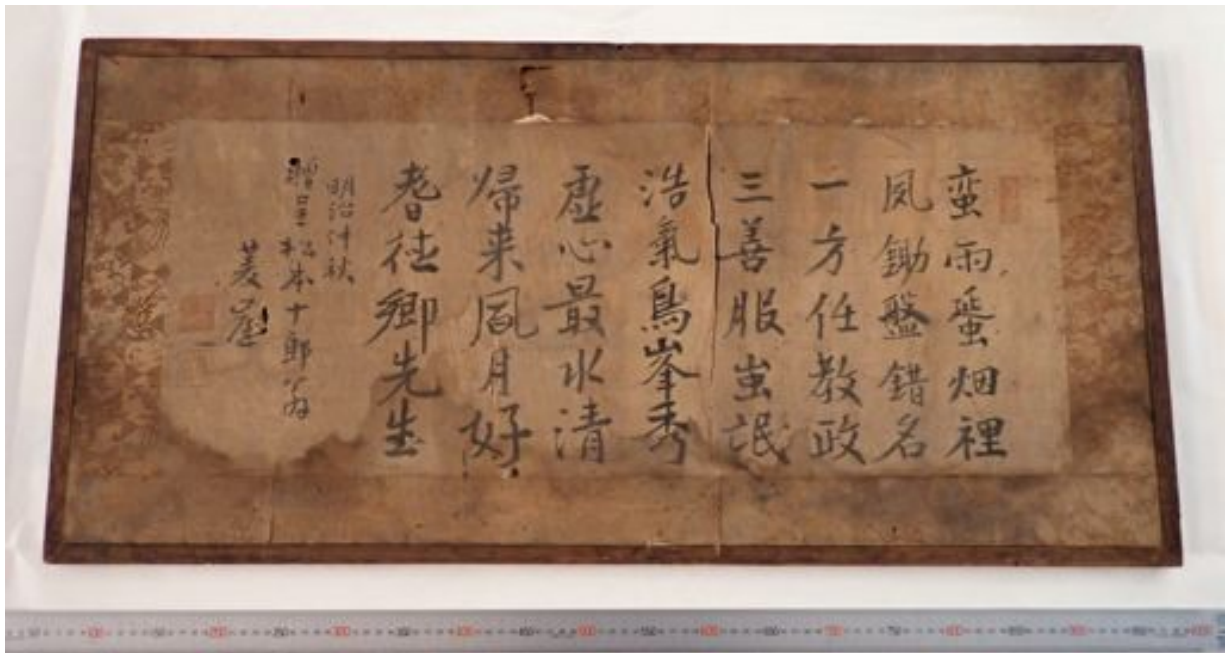


写真1. 絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額

\* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

1839-1916)は、現山形県鶴岡市出身、明治初期に開拓判官、開拓大判官として北海道開拓に尽力した<sup>(注2)</sup>。1864-1865年に荘内藩士として浜益の開墾と警備の任に当たり、開拓使時代のアイヌの人々への対応はこの時の経験がもとになったといわれている。その後、判官を辞して38歳で鶴岡に戻ったが、浜益との繋がり、『浜益沿革史』(1900)に序文を寄せるなど、その後もゆかりが深い<sup>(注3)</sup>。

一方、漢詩文を書いた菱崖も石狩や浜益にゆかりがある。菱崖の本名は小笠原辰治(1868?-?)である<sup>(注4)</sup>。松本十郎と同じ鶴岡市を郷里とし、1880年に来道の後、東京で医学を学び、石狩病院・浜益病院等に奉職、1896年に小樽で開院した。若い頃から詩作を嗜んだが、火災のため多くの作品が失われる。菱崖の著書『菱崖詩鈔』(1937)には「浜益川下残礎」の詩作(1886)があり、浜益病院に奉職する前にも浜益を訪れていたとみられる<sup>(注5)</sup>。

### 3-2 漢詩文

当該資料の漢詩文(全文)は以下のとおりである。原文、書き下し文、訳については、名畑嘉則氏にご協力をいただいた。

#### 〈原文〉

蛮雨蠻烟裡  
夙鋤盤錯名  
一方任教政  
三善服蚩氓  
浩氣鳥峯秀  
虚心最水清  
歸來風月好  
耆徳郷先生  
明治仲秋  
贈呈 松本十郎翁  
菱崖

#### 〈書き下し文〉

蛮雨蠻烟の裡(うち)  
夙(つと)に盤錯を鋤して名あり  
一方 教政に任じ  
三善 蚩氓を服す  
浩氣 鳥峯秀で  
虚心 最水清し  
歸り来れば風月好し  
耆徳の郷先生  
明治仲秋  
贈呈 松本十郎翁  
菱崖

#### 〈訳〉

荒涼たる未開の地の霧の立ち込める中で、  
早くから開拓の功で名を上げられた。  
一つの地域の政治教化を任せられ、  
三つの徳により未開の純朴な民を従えた。  
何物にも屈しない広大無辺の心は鳥海山のごとく  
秀で、  
わだかまりを持たぬ無私の心は最上川のごとく清  
らかである。  
歸り来れば、美しい故郷の風景の中、  
老いて徳高い御隠居として悠々自適に過ごされ  
る。  
明治陰曆八月  
贈呈 松本十郎翁  
菱崖

### 3-3 制作年代の推定

当該資料は、漢詩文の後に「明治仲秋」とあることから、明治の陰曆8月に贈られたものである。具体的な詩作の年代については記載がなく不明であるが、菱崖が医師免許を取得してからの明治20-40年代頃と推測される。なお、後述のとおり、当該資料には下張りの一部に墨書のある和紙や古新聞が用いられていることから、今後、修復等で表装を剥がす機会があれば、裏打ちをした年代に

ついて手がかりを得られる可能性がある。

### 3-4 扁額の構造

当該資料の大きさは額全体の大きさを縦 92.3cm・横 44.4cm、絹本の大きさを縦 75.0cm・横 29.8cm である。額装は木製で、表装内部は木製格子状を土台とし、板貼りをしていない。内部には古紙（古新聞）が使用され、絹本の下貼りには和紙の張り合わせを用いている。破損部の目視から、下貼りの一部には墨書のある和紙を再利用したものとみられる。

## 4. まとめ

当該資料は、菱崖（小笠原辰治）が鶴岡に暮らす同郷の先人・松本十郎宛に、蝦夷地開墾に尽力した功労や人徳を讃えた詩作と考えられる。松本・菱崖の両氏ともに石狩・浜益にゆかりがあり、同じ郷里をもつ小笠原にとって松本が尊敬する存在であったことが推察される。その後、当該資料が浜益住民によって買い求められたことや、浜益村郷土資料館で長く地元の人びとによって大切に残されてきたことの所以が窺われ、同郷である荘内藩とその先人を尊んだ浜益地域の貴重な郷土資料といえる。

**謝辞：**当該資料にかかる関連資料の調査にあたり、石川直章館長（小樽市総合博物館）にお世話になりました。当該資料の概要調査の検討にあたり、谷本晃久教授（北海道大学大学院文学研究院）より貴重なご助言を賜りました。漢詩文の原文・書き下し文・訳にあたり、名畑嘉則教授（藤女子大学）より多大なご協力を賜りました。末筆ながら心よりお礼申し上げます。（氏名の五十音順により記載）

（注 1）当該資料は、はまます郷土資料館に展示されていたが、劣化の進行を考慮して、現在は展示公開を控えて保管している。なお、当該資料の記録カードの資料名は「扁額」とある。

（注 2）松本十郎と北海道・石狩・浜益との関わりについては、北国（2010・2012）、井黒（1988）、工藤（2014）を参照した。

（注 3）『浜益村史』（石橋編、1980）の「第 12 章 余録 2 浜益沿革史」を参照した。序文の最後に、「明治三十三年八月 正五位 松本十郎」とある。

（注 4）柴田（2021）を参照した。

（注 5）小笠原（1937）、小樽名鑑編纂事務所（1923）を参照した。

## 引用文献

- 北国諒星，2010. さらば・・えぞ地—松本十郎伝—，北海道出版企画センター，
- 北国諒星，2012. 特別寄稿 庄内藩のえぞ地警備・開拓の夢を追う—浜益陣屋の建設・経営を中心として—，いしかり暦（石狩市郷土研究会誌），25：40-50.
- 井黒弥太郎，1988. 異形の人：厚司判官松本十郎伝，道新選書 8，北海道新聞社.
- 石橋源編，1980. 浜益村史. 浜益村.
- 工藤義衛，2014. 松本十郎石狩関係資料. いしかり暦（石狩市郷土研究会誌），26：31-40.
- 小笠原辰治，1937. 菱崖詩鈔.
- 小樽名鑑編纂事務所，1923. 小笠原辰治君. 小樽名鑑前篇，30-31.
- 柴田清継，2021. 王治本 明治三十九年 北海道における詩作と交流—小樽・札幌・室蘭・函館（第一回）. 武庫川国文，89：35-43.